

花巻清風支援学校

研究テーマ

『主体的な学び』『対話的な学び』『深い学び』を位置づけた授業づくりを目指して～主体性を育むための単元・題材構想シートを通した授業づくり～

1 全体研究

(1) 主題設定の理由

本校の教育理念は「生きがいのある豊かな生活の実現」である。1年次は研究を通してこの教育理念を追求すべく主題を設定した。新学習指導要領に示された三つの学びの視点で授業づくりを行うことで、教育理念から導かれた学校目標「仲間とともに、今を主体的に」に近づけるのではないかと考えたからである。研究過程においては、対象児童生徒に関する単元・題材構想シート(H30年版)を用いながら、授業づくりを行った。これまでの授業実践を新学習指導要領の三つの学びに当てはめた場合どのような手立て・支援を行っているかを検証したが、新学習指導要領の方向性である「児童生徒主体」を念頭においた授業実践になっていないことが課題として挙げられ、三つの柱と三つの学びとのつながりをどのように考えれば良いかなどの疑問点がみえてきた。

今年度は、1年次の成果と課題から児童生徒主体の授業づくりに重きをおいて進めていくこととし、研究主題をより焦点化させた。仮説として、新学習指導要領に掲げられた三つの柱の中の「学びに向かう力・人間性等の涵養」は児童生徒の主体性を目指しており、主体的に取り組む授業づくりを目指すことで、他の二つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」が必然的に身に付いていくのではないかと考えたのである。そのため、児童生徒が主体的に取り組むためには、授業を展開する過程において「どのように学ぶか」の視点が重要であり、授業づくりの上で欠かせないものであることから、「どのように学ぶか」を示す「三つの学びを位置づけた授業づくり」を研究主題に設定した。

本校ではカリキュラム・マネジメントを推進していく中で、平成30年度研究の考察も踏まえ、児童生徒が主体的に取り組めるよう「テーマのある生活」を念頭に年間授業計画を作成した。研究推進においては、「テーマのある生活」をもとに計画した単元・授業について、授業者グループで検討。その後、対象児童生徒に対し、三つの柱を

た「目標」を設定。「どんな手立て・支援を組むと児童生徒が主体的に活動できるか」についてより具体的に検討した。授業を行っていく課程において、対象児童生徒の変容などを見ながら、目標立てや支援・手立ての妥当性を検証することを通し、授業改善に繋がった。なお、授業づくりの検討には、附属特別支援学校で作成した「授業づくりの視点」を参考にした。

(2) 研究の目的

学校全体(寄宿舍、各分教室も含む)で、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの学びの視点で主体性を育む授業づくりに取り組む。

(3) 研究の内容

① 各学部・寄宿舍・各分教室における研究グループを少人数で構成し、授業づくり・検討を行う。

② 単元・題材構想シートで授業の全体計画を計画後、対象児童生徒を抽出し、授業ごとに目標や手立て・支援、評価を行う。

(4) 研究授業および研究授業に関わる授業研究会について

① 教職経験3年目研修

高等部:7月

小学部:11月

(「開かれた授業研究会」にて実施)

② 「開かれた授業研究会」(11/29 金)

公開授業(全校)

指定授業(小・中学部1授業) — 分科会

2 講演会

演題:「実社会・実生活に結びついたテーマのある授業づくり～主体的に取り組む、確かな力となることを願って～」

講師: 明治学院大学社会学部社会福祉学科
准教授 高倉 誠一氏

期日: 令和元年 11月 29日(金)

※開かれた授業研究会同日午後開催した。

※特別支援教育ステップアップ研修講座Ⅱと兼ねた。

参加者 175名(外部参加者 30名)

3 研修会

研修報告会(12月26日)